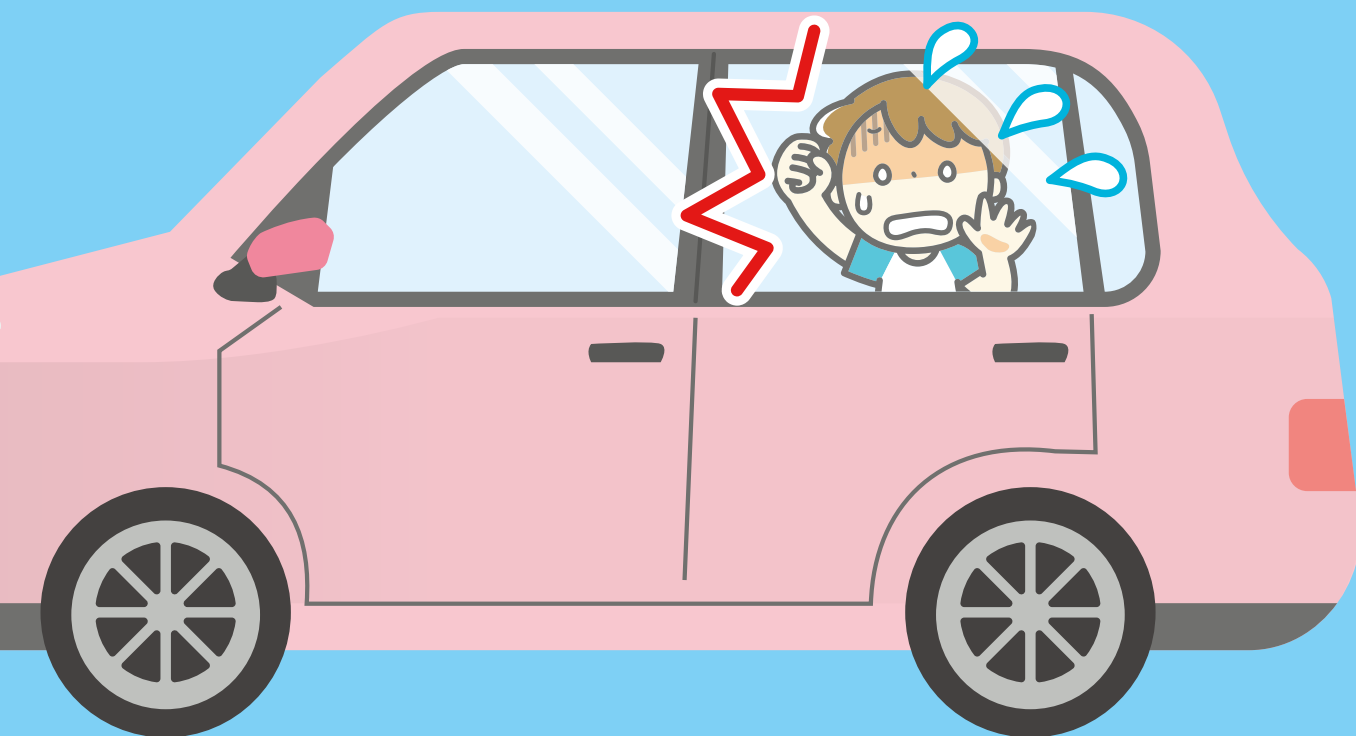




子どもを車内に 置いていかないで



降車時に必ず車内を確認しましょう



子どもが熱中症になりやすい理由

- ①汗腺などの体温調節能力が未発達(熱しやすく冷めやすい)
- ②体重当たりの体表面積が大人より大きく、高温時や炎天下では深部体温が上がりやすい
- ③乳幼児は、自分では行動できない(水分補給できない、助けを呼ぶことができない等)

静岡県・静岡県警察
「みんなで子どもの命を守る」

わずか15分で人体にとって危険レベルに！

35℃の炎天下に駐車した車内の暑さ指数は、窓を締め切った状態でエンジン停止後、わずか15分で熱中症指数が最高レベルの「危険」に達します。
車内温度はエンジン停止後30分で45℃を超えてしまいます。

※JAFユーザーテストより引用



エンジン停止後
30分で
45℃超

エンジン停止後
15分で
危険

こどもが寝ていて起こすのが
かわいそう。
ちょっとコンビニに行くぐらいなら
車内に残しておいてもいいのでは？

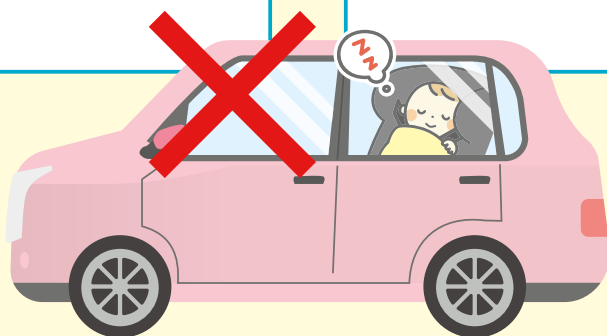
エアコンを付けておけば大丈夫？
日陰に駐車したり、少し窓を開けて
おけば？

車を離れた際に鍵がかかってしまい、閉じ
込められる事案が発生しています。
通常の開錠では時間がかかって危険とし
て、窓を割って救助したケースもあります。

※JAFホームページより引用

エアコンをつけていても、燃料切れでエン
ジンが止まる可能性や、機器の故障等も考
えられます。
日陰への駐車や少し窓を開けていても、外
気温が高温である場合は車内温度が危険
レベルに達する可能性があります。

※JAFユーザーテストより引用



こどもの命を守るために

●保育所等の通園バスへは、こどもの置き去り防止のための安全装置の設置が義務づけられ、設置が進んでいます。また、乗降確認等をダブルチェックで実施するなど、安全管理の徹底がされています。



●家庭でも、保育所への預け忘れによる死亡事例等が発生しています。
スマートフォンや財布など常に身につけるものをチャイルドシート付近にあえて置くようにすることで、降車時に後部座席を必ず確認するようになり、置き去りの防止につながります。